

総務経済常任委員会視察報告概要

【埼玉県狭山市】

- 1 視察日時 令和6年5月15日（水）
午前10時から午前11時50分まで
- 2 視察先及び視察事項
 - ・視察先 埼玉県狭山市
 - ・視察事項 入間川にこここテラスにおける公民連携について

3 参加委員

委員長 佐野 允彦

委員 石本 亮三

矢作 いづみ

中 毅志

斉藤 かおり

福原 浩昭

入沢 豊

4 視察の目的

所沢市では、令和5年度から、企業や大学からの連携に関する提案・相談を一元的に受け付ける窓口として、「公民連携推進室」を開設した。

現在、市では、一体化をして進めている、市の表玄関である所沢駅周辺の区画整理と再開発事業におけるまちづくりや、商業施設誘致に伴う地域経済の活性化、市内大型商業店舗の撤退後の跡地利用など、市だけでは解決できない課題が山積している。

そうした中で、狭山市の「入間川にこここテラス」については、公民連携により整備されたものであり、当市の公民連携推進室の取組にも大いに参考となるものであることから調査・視察を行い、所沢市として今後どのような取組をしていくか等を含め、委員会として審査等の参考にするため。

5 視察の概要

小谷野狭山市長、太田狭山市議会議長から歓迎の挨拶をいただき、佐野委員長の挨拶の後、担当者から視察事項の説明、質疑応答が行われた。その後、福原委員の御礼の挨拶を行い、視察を終了した。

6 概要説明

【入間川にこにこテラスの概要】

名 称：入間川にこにこテラス

住 所：狭山市柏原2910-1

面 積：約45,000㎡

駐車場：計85台（第1、第2の合計）

事業の目的

河川敷中央公園を中心とした憩いの空間づくり

+

官民連携による恒常的なにぎわいの創出

⇒交流人口の増加、地域のイメージアップ

PRポイント

キッチンカーなどのイベント開催

全国初河川敷地でのスターバックスコーヒー出店

スターバックスコーヒー入間川にこにこテラス店

オープン：2021年3月5日（金）

営業時間：7：00-22：00（通年営業）

建物床面積：265㎡

客 席 数：店内44席 テラス20席

【事業の経緯】

プロジェクトの背景

- ・入間川河川敷は、自転車道や公園が整備され、桜や曼珠沙華など、四季折々の草花によって訪れる人々の憩いの場として活用されている。
- ・平成22年度以降、埼玉県と市が連携した「水辺再生100プラン」「川のまるごと再生プロジェクト」によりアクセス階段の整備、魚道の整備、護岸整備、兩岸の遊歩道が整備。
- ・埼玉県の「水辺空間とことん活用プロジェクト」制度を受けて、狭山市でも「入間川とことん活用プロジェクト」を平成28年度に開始。入間川河川敷利用調整協議会設立。

スターバックスコーヒー出店まで

- ・入間川とことん活用プロジェクト事業計画
→観光拠点機能の充実と、さらなる交流人口の増加を目指し、あそびと憩いの空間創出事業と民間施設導入事業を実施する。
- ・令和元年 民間施設導入事業開始、アンケートの実施
- ・休憩施設の整備、飲食施設の整備といった意見が多数あり
- ・令和元年7月10日 入間川河川敷飲食施設出店者募集開始
- ・スターバックスコーヒー出店決定
令和元年12月25日 施設使用契約締結

入間川にこにこテラス活性化事業

- ・令和3年3月にスターバックスコーヒーがオープン。大型複合遊具や、乳幼児向け遊具も設置し、おおむねハード整備は完了。
- ・令和4年度より社会実験として「入間川にこにこテラス活性化事業」を開始。
※市の支出負担はなく、事業者負担で事業を行ってもらう。

【イベント開催実績】

- ・令和4年度 期 間：令和4年6月8日から令和4年11月30日
日 数：42日
来 客 数：4,208人
売 上 額：379万7,500円
事 業 概 要：キッチンカー出店、はしらベンチの無償設置、レジャーシートの無料貸し出し、キッチンカー協会と地域団体との共催イベント開催
- ・令和5年度 期 間：令和5年4月1日から令和6年3月31日
日 数：43日
来 客 数：4,864人
売 上 額：280万950円
事 業 概 要：キッチンカー出店、はしらベンチの無償設置、レジャーシートの無料貸し出し、イルミネーションの実施、キッチンカー協会と地域団体との共催イベント開催

地方創生拠点整備交付金等の活用について

H28 地方創生加速化交付金交付額 1, 800 万円

- ・「入間川とことん活用プロジェクト」推進支援業務委託
- ・新富士見橋側から自転車道沿いに太陽光照明灯を10基設置
- ・入間川サイクルフェスタ in SAYAMA等の実施

H29・H30 地方創生拠点整備交付金交付額 3, 265 万円

- ・園路舗装
- ・多目的デッキ3基
- ・テーブル付きのパークベンチの設置3基
- ・太陽光照明灯6基・園路灯17基設置
- ・とことん Soto asobi 等の実施

ふるさと創造資金（事業名：入間川あそびと憩いの空間整備事業）

- ・令和元年度2, 300万円 令和2年度2, 500万円
- ・駐車場の整備、照明設備の設置
- ・乳幼児向け施設の設置
- ・大型複合遊具の設置 など

令和6年度実施事業

事業名：入間川にこにこテラス活性化事業（第3期）

実施期間：令和6年4月1日から令和7年3月31日

実施場所：入間川にこにこテラス（ケータリングスペース及び桜エリアの一部）

目的：官民連携を通して日常的に居心地のよい空間の創出及び持続的な公園の維持管理運営の体制の構築を図る。

実施事業者：野口自動車工業株式会社

入間川にこにこテラスの管理方法について（委託している業務）

- ・ゴミの収集
- ・桜の木の剪定
- ・公園の管理
- ・はしらベンチの設置
- ・芝生の維持管理
- ・駐車場への警備員配備 など

河川占有について

狭山市から県へ占有許可申請し、狭山市と施設利用者が施設利用契約を結ぶ。
使用する敷地(m²)×1 m²あたりの金額で算出(年額301,440円)

令和6年度入間川にこここテラス管理事業費総額 2,639万5,000円。

消耗品費：50万円

保険料：5,000円

施設維持管理等委託料：2,434万5,000円

事業関係委託料：40万円

賃借料：42万1,000円

今後の課題

・駐車場のキャパシティ

第1、第2駐車場で85台分のスペースがあるが、時期によってキャパシティをオーバーすることがある。令和6年4月上旬、駐車場待ちによる渋滞問題発生

※アンケート結果では70%が車にて来場、駐車場に対する不満多数あり

・コストの増加

施設管理のため複数の委託契約を行っているが、材料費や人件費の高騰によるコスト増加があり、今後もコスト増と予想される。

令和4年度委託料1,119万8,402円

令和5年度委託料1,336万8,030円

令和6年度委託料2,474万5,000円

今後の展望

令和7年度の事業について、プロポーザル方式による事業者選定を実施

+

施設の居心地の良さを促進(施設整備やスターバックスコーヒーとの連携)

⇒にぎわい溢れる居心地のいい場所へ

7 質疑応答

質疑：公共空間利活用をする方針、計画は策定されているか。

応答：第4次狭山市総合計画後期基本計画や、狭山市まち・ひと・しごと創生総合

戦略にて、入間川の河川敷についても多くの市民が憩える場として、環境の整備を進めるということが計画に位置づけられております。ただ、今申し上げた総合計画や、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中では整備内容が細かく計画されているものではございませんが、河川敷を市民の憩いの場として活用していくということを位置づけて、それに基づいて入間川とことん活用プロジェクトの計画を作った形になっております。

質疑：スターバックスコーヒーが選定された経緯を伺いたい。

応答：計画を正式にスタートする前に、民間のコンサルに業務委託をして、サウンディング調査、ニーズ調査をしていただきました。その中では建物が建てられるという認識で動いていましたから、一定数の反響はありましたが、先ほど太田議長からもお話がありましたけれども、河川法だと使える期間が10年の縛りがあり、更新も可能ではあるけれども、民間事業者にとっては万が一、11年目が迎えられないとなると、リスクがあるからということで、途端に興味半減したという事業者も実際にいらっしゃいました。また、河川敷でロケーションが非常によいものですから、例えば季節限定でバーベキューをやるような事業者であったり、そこで宿泊ができるようなことをやっている事業者もいらっしゃいましたが、やはり地域の方、例えば自治会の方とか、騒音であったり臭いであったり、治安も含めてちょっとよろしくないなということで、どんどん幅が狭くなってきた中で、最後までスターバックスからは一定の興味を示していただいていたいました。そして、プレゼンをすれば皆さん待ち望んでいるお店ですから、そのところでは委員の中では異論はありませんでした。

質疑：狭山市では、日頃から民間企業へのヒアリングを行っているのか。

応答：現在の小谷野市長が就任されてから、市長の公約で市長自らが市内の企業訪問という形で企業を訪問されております。トータルでは100者を超えていますが、直近では令和5年度が8者、令和4年度が5者という形で、コロナの影響もあったことで若干少ないですけれども、新しくいらっしゃった企業ですとか、リニューアルをした企業だけではなくて個人のお店に行かれることもあります。担当課も同行しますので、そういうところでいろいろ情報を収集したり、いろんなお話を伺ったりしている状況でございます。

質疑：家賃、使用料はどのような内容で契約されたか。

応答：河川敷ですので、基本的には埼玉県管轄で、公園として利用する部分について市が借り上げてはいますが、商業行為、営利目的とする場合には河川の占

用料が発生します。約30万円をスターボックスが年1回狭山市に預けて、予算書には載らないですけれども、歳計外現金でお預かりしたものを県に収めるという形を取っております。そのため、狭山市に財源として歳入が入ってくるということではありません。併せて、先ほどの説明の中でありましたように、社会実験としてやっているキッチンカーのイベント等につきましても、営利目的だということで占用料が発生してしまいます。狭山市の社会実験という形を取っているものですから、面積エリアを決めて面積分の占用料を市の予算で占用料として払っています。来年に向けては、正式に社会実験を終わりにして、エントリーをしていただいて、その方が令和7年度に事業を始めるとなれば、使うエリアについてはその団体が占用料を納めていただくという形でございます。

質疑：公園エリアの利用者数は、どのくらい増加したか。

応答：お花見の時期だけは花見客がいらっしゃいましたけれども、それ以外は基本的にほとんど利用されない状況でした。そうすると、雑草の管理とかもできないので夏場になると草が伸びっぱなしというような状況でありましたが、整備を行ったことで、今ではお休みの日だと、特にイベントがなくても大勢のお客様に来ていただいています。ただ、先ほど申し上げましたように、それに伴っての渋滞の問題が発生しているところです。

質疑：駐車場は充足していないのではないか。

応答：第1駐車場と第2駐車場という形で、スターボックスができる前は、三十数台の駐車場だけは平成26年頃に県の交付金を使って、駐車場と水洗トイレを都市建設部のみどり公園課で整備をしていましたが、スターボックスの出店や遊具の設置に伴って増設しまして、今85台となっております。ただ、85台ですと通常時でも満車になってしまいますので、にこにこテラスでイベントをやる場合には、橋の下流に、河川敷で使っていないところがありますので、例えば、市民会館の臨時駐車場や、野球場を利用する方の駐車場として使えるようになっていきます。イベントをやるときには商業観光課が管理していますので、借り受けて対応するというようなこともやっております。ただ、その場合には、にこにこテラスでイベントをする主催者がいて、主催者が臨時駐車場を開放するときにはスタッフをつけるような形で対応をしております。

質疑：キッチンカー、マルシェ等の出店やイベントの調整は、どのように行っているか。

応答：初期の頃、国の交付金とかを活用させていただいている中では、ハード整備とソフト事業というのがありますが、ソフト事業については商業観光課が基本的に直営でやっていました。年に1回か2回ですけれども、それなりの規模のもの、新規のイベントをやるというのはすごく労力がかかり、これは続けていくのは無理だなと思い、いろいろと模索し、民間事業者で誰かいい人いないかなという中で、たまたまその時期に合わせて狭山市で民間事業者が狭山市のキッチンカー協会をつくって、それはコロナだったから余計にできたのでしょうけれども、そのキッチンカー協会の方もすごく増えたものを取りまとめていただいて、我々は社会実験の相手先としてやっております。そこでいろんなイベントやキッチンカーの出店について、基本的にはその団体が主体となってやりますが、その内容について報告をいただくという形でございます。

質疑：河川敷公園について、国や県との調整はあったか。

応答：国は特に調整することはありませんが、国としても河川の利活用というのはすごく盛んにやっていますので、にこにこテラスについても非常に興味を持って見ていただいているというのは承知しております。埼玉県については、飲食店の公募前には事前協議を行っております。また、工事をするとか、設備の設置、そういうときには申請を県土整備事務所等にさせていただいております。

質疑：国や県、都市・地域再生等利用区域における補助金、規制緩和などあるか。

応答：現状について先ほど説明をさせていただきましたが、当面はハード整備を増やしていくとか、新たなキッチンカー協会以外の民間事業者を参入させるということは考えていませんが、今後現在のものをもう少しちゃんと整備して発展させていくというような形で考えているところでございます。

質疑：管理事業費予算として2,600万円余りの予算がかかっている、事業の目的として交流人口の増加、地域のイメージアップとある。これだけの予算を使ってイメージアップしたと思うが、狭山市としての収入について、出る一方で入ってくることはないのか。

応答：おっしゃるとおり、それが課題となって、どんどん大きくなってきているのが現状です。その中で、この予算の内訳は九十数%が管理費で、今年は特に桜の剪定で予算要求した費用、1,200万円くらいがいただけましたので、令和6年度は増えています。歳入をどうしていくかというところでは、例えば、駐車場の有料化も念頭にはありますが、都市公園でないと駐車場を有料

化する場合に、市であっても県に占用料を払わなければならないという問題が出てきてしまいます。また、市内のほかの都市公園が無料のままなのに、にこにこテラスだけ有料というのも問題が出てくるでしょうから、全庁的に一斉に有料化を進めていく必要があります。そういうことがあって、例えば、キッチンカー協会が市のためにといっても歳入として増やすことができない状況なので、市民に還元するためということでライトアップをしていただいたり、時期によってはイルミネーションで市民の方に楽しんでいただく、そういうことで還元をしているというのが現状です。

質疑：展望について先ほど御説明があったが、令和7年度の事業について、プロポーザル方式で事業選定を行っていくとのことで、にこにこテラスからさらに増やしていく予定なのか、もしくは今スターボックスがやっているけれども、スターボックス以外に併設して増やしていくのか。

応答：商業観光課としての考えにはなってしまいますが、にこにこテラスのエリアを広げるということは考えておりません。そこを広げていくときには、維持管理の部分ですとか、役割分担をもうちょっと明確にして、関係する部署をもっとつくってやっていかないと、一課で担っていくということはなかなか難しいと思います。スターボックス以外の店舗を増やしていくのかということについても、現状、スターボックスが非常に繁盛されている、お客様がいらっしゃっているということもありますが、にこにこテラスの中で、新たに民間事業者、常設の店舗を入れるということは基本的には考えていません。ソフト事業における民間事業者の参入については大いにあり得ると考えています。

質疑：狭山市駅からこちらに自転車に来て、帰っていただくようになるというお話があったが、そもそも公共交通が行き来しているようなルートがあるのか。

応答：駅からの回遊性ですが、こちらについても、もうちょっと全庁的にやっていく必要があると思います。回遊性という言葉は非常に耳障りがいいですが、いろんな計画で書いてしまったはいいいけれども、回遊させるというのは非常に難しいです。にこにこテラスにはお客様がいっぱいらっしゃいますが、そこに来るのが目的であって、それで駅のほうまで行ってくださいと言っても、それはどうなのかなと思っています。強制的にでも回っていただけるように、イオンがリニューアルオープンしたときにこちらからも働きかけてスタンプラリーで回すとか、ウォーキングのときにコースに入れて駅に誘導するとか、そのようなことを少しずつやっていますけれども、そこをもっ

と議論していくと、ソフト事業だけではなかなか厳しく、ハード整備にもっと力を入れていかないとできないのかなと思っています。ただそれも、商業観光課だけでやり続けるというのはどうなのかなというところもありまして、そこはやはり課題です。

質疑：今のお話ですと、今後のプロポーザルによる事業者選定はどのようなイメージで具体的に考えているのか。

応答：プロポーザルにつきましては、3年間実証実験という形でやっておりますので、基本的にはその内容を、広報、ホームページですとか、SNS 上で公募をかけてエントリーしていただくという中で、エントリーして来ていただいた方に提案していただいて、選定をするという形を考えております。期間についても、おおむね3年その事業者にやっていただければと考えています。

質疑：現状のにこにこテラスは非常に盛り上がっているが、長い目で見ると財政面の課題があったり、都市公園等の課題がある中で、どのようにやっていくかという議論はどの辺まで進められているのか。

応答：このまま続けたときに、財源的にどうなっていくのかというのが一番大きなところではあるかと思います。かけるべきところにはお金をかけなければならないというのが当然あると思いますが、有料化できる部分については有料化したり、除草も環境団体の方たちと一緒に、私も休みの日にその団体の草刈りとかにお呼ばれますが、市民の方とか事業者の方でできる部分を少しやっていくというようなことがあるかと思います。全庁的な話になると、都市公園にして、もうちょっとお金を稼げる形にしていくことが必要かなと考えておりますが、ただ現状では、環境経済部では共通認識ですが、他部と意識を統一して共通認識でというところまではいっていないのが現状です。そこはやはり小谷野市長をはじめ、スタートダッシュをするときに音頭を取っていただいて、全庁的にやっていくことが必要だと思っています。

質疑：スターバックスにはやはりステータスがあると思うが、建物を造るときにスターバックスからの要求、こういうものにしてくれというものがあつたのかどうかについて伺いたい。

応答：全くの更地であつたところに造っていますので、スターバックスからの要求というのは基本的にはなかつたです。ただ、事前計画の中で、駐車場はスターバックスのお客様も共用で使っていていいですよ、公園利用者とスターバックスで駐車場を分けることもしないですよという条件を提示していますので、要求は特になかつたです。我々のほうから、県も含めてですけれども、せつ

かく河川に近いところに造りますので、ロケーションを大事にさせていただきたいとか、あとは一部でもいいから西川材を使ってくださいとか、こちらからスターバックスにお願いをしてそれを実現していただいています。

質疑：補助金が出ているようだが、建設費に関してはやはり市の負担も大きかったのか。

応答：パーク PFI と同じで、市は建設費を基本的には出していません。建物と、ドライブスルーレーンの整備と、あとは自分のところの看板というのは全部民間の費用でやられています。

質疑：令和6年度の管理事業費予算というところで、賃借料とあるが、これはスターバックスではないのか。

応答：今年まで社会実験として実施しているキッチンカー協会が出店する場所の占用料を市が予算化して1年分を払っています。来年例えばキッチンカー協会が正式にその事業の受託者になった場合には、このお金はキッチンカー協会が占用料として埼玉県にお支払いするという形になります。

質疑：河川占用料の約30万円について、これは施設使用者から市を経由して県に収めると話があったが、そうするとスターバックスは賃貸料とか使用料といったものは払わないということか。

応答：スターバックスから市に一銭もお金は入っていませんが、河川占用料をスターバックスから一時預かって、それを県にお支払いしています。

質疑：河川占用料の約30万円は年間か。

応答：年間です。我々もエントリーを受け付けるときに結構来ると思いましたが、10年縛りが遥かに大きくて、民間事業者だと、例えば家賃、土地代がそれなりの値段になっても、ランニングコストの中でいかようにも調整をして、長期の回収計画をつくれますが、10年というところでなかなか出なかったということです。

質疑：撤退するときには原状復帰させるという条件はあるか。

応答：期間満了に伴っては、基本契約の中では原状復帰です。今の場合だと、スターバックスが建物とドライブスルーを更地にして返すことになります。ただ、もしそうなった場合に、建物の所有がスターバックスですから、もう撤退するとなったときには、自分で壊すか、それを売るかの二択です。

質疑：増水の可能性について伺いたい。

応答：スターバックスも増水時の防災対策のような計画をつくっていますが、現状、増水の心配は基本的にありません。

質疑：調整区域の関係で開発が難しかった、ただ開発許可が出ましたという話をい

ただいたが、なかなか開発許可が下りづらいと私は認識しているが、どういう経緯で開発許可が下りたのか。

応答：開発許可については審査会ではないです。市で開発許可を行えますが、正直申し上げますと、たまたま前面道路が県道であったため、開発条件をクリアする「沿道サービス」が使えました。

質疑：回遊性という言葉が乱立しているという話をいただいたと思うが、公共交通の政策や計画にどうやって乗せるのか。デマンドバスを公共交通でやるとか、自転車を走らせるとか、その道路をどうしていくかということ、回遊が乱立しているとできにくいとなれば、計画自体を少し変えて出していくのか。その辺は現状どのように考えているか。

応答：回遊性の話というのは、狭山市駅西口の整備がありまして、その計画であったり、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、そこを核にして河川のレクリエーションゾーンとして利用していただく中で回遊性という言葉を使って、結局それだけが未だに残っていて、まだできていないよねみたいな話になっています。ただ、ほかの部署の計画とかも含めて、回遊性という言葉はおそらく使われなくなってきたのかなと思っています。あとは、狭山市駅の場合、市の一番中心の駅でしたから大がかりなプロジェクトではありました。今年度末には入曽駅も整備が完了しますけれども、そちらの計画だと回遊していただくというのが、道路網等も含めてなかなか厳しいと思いますので、市民への説明は多分していないと感じております。

8 委員長所感

入間川にこにこテラスについて説明していただき、河川沿いの利用における県との協議や調整のご苦勞が理解できた。整備によって、新たな賑わいの場所ができた反面、渋滞問題など新たな課題の発生に頭を悩ませていることも伺えた。結びに、わざわざ小谷野市長がおいでくださり、ご挨拶いただいたことに深く感謝申し上げます。